

第 3 回 天王寺区区政戦略会議

日 時：平成 2 5 年 1 月 3 1 日（木）

午後 7 時 0 2 分～午後 8 時 5 8 分

場 所：天王寺区役所 5 階 502会議室

○事務局

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。ただいまから第 3 回天王寺区区政戦略会議を開催させていただきます。

早速ではございますけれども、議題に進めさせていただきたいと思っております。

議題 1 としまして、各作業部会からの報告についてでございます。議題 1 としましては、効率的なディスカッション、限られた会議時間の有効活用、適材適所の観点から、区政戦略会議委員の皆様が「教育・子育て・国際交流作業部会」、「防犯・防災・地域社会作業部会」、「シティ・プロモーション作業部会」の 3 つの作業部会に分かれ、委員間で事前に意見交換を行い、区政戦略会議の場で報告・提案することが前回の会議で確認されました。

今回の会議では、各作業部会からご報告いただき、ご意見、ご提案を含めて議論いただきたいと思います。

では、田中議長、よろしくお願いいたします。

○田中（英俊）議長

それでは議題に入りたいと思います。まず、作業部会の資料をお手元に配ってあるかと思いますが、それに沿いながら、まず教育・子育て・国際交流作業部会、田中誠悟さん、よろしくお願いいたします。

トータルで 1 チーム 3 0 分を考えておりまして、説明の時間は 1 5 分以内ぐらいにいただけますか、よろしくお願いいたします。

○田中（誠悟）委員

よろしくお願いします。（資料の流れとしましては）横にずれてという形になりますので、お願いします。

まずは当部会の基本理念ということですが、やはり今、教育ということではグローバル化であったりとか、格差社会ということを見ると、社会が求めている人材というのが今までと少し違うだろうと。で、我々としてはやはり自分の考え方をしっかりと持って、それを他者に対して発信できる能力、それと自分と他者の違いを理解できて、それを受け入れられるような能力というのを、いかに子どもたちにつけていってもらおうかということを理念に置こうと。そういう意味で、関係者が夢を持って前向きに取り組んでいけるような、最近、教育において少し暗い提言が多いので、どちらかというと前向きな話ができないかということで、基本理念とさせていただきました。

この基本理念を達成するために必要なものとしてはやはりこの4つ、学校関係であったり、区役所であったり、あと住民ですね、それと関係機関というものが尊重しながら、一緒に議論をしていけるようなものが必要かなというふうに思っています。

じゃあ天王寺区の資源ということになれば、何があるんだということなんですが、これは前にもお話が出たことがあると思うんですが、ある程度の高さの生活水準と、あと文教地区であると。これは外からの評価かもしれませんが、これは一つの評価ということで、これはあるだろうと。それと国際交流センターが市の管轄ではあるけれども、天王寺区に存在するというのが一つの利点ではないかなというふうに思います。これらをうまく相乗効果を引き出すことができれば、おもしろい提言が、国際交流、教育に関してはできるんじゃないかというふうに考えています。

まず1個目の提言なんですが、じゃあ国際交流を今後どう推進していくかという提言です。一つ今考えているのが、国際交流センターから授業とか、これはまだ、ちょっとそこまで落とし込んではないんですが、授業かもしくは放課後、土曜日みたいな形で留学生とか、あと大使館の関係者を派遣することはできないかと。この前、サウ

ジアラビアのちょっとそういう関係のものがあつたんですが、非常になかなか委員6人とも興味を持って、おもしろかったので、そういうことが実際授業に入れ込むということができないかということで考えています。小中学校はそれで派遣してもらうことによって、保護者の方に国際交流の機会を与えることができる、保護者とか子どもたちが今度、国際交流に興味を持ってくれることで、国際交流センターも支持を得られると。これは3者ともに非常に有効ではないかというふうに思っています。

①の提案に対する効果なんです、私が想定しているのは英語圏だけではなくて、やはり中東とか東南アジアの方々と異文化を肌で感じることであればいいなというふうに思っています。それによってやはり他者との違いがくつきりします、それを認めて、受け入れるような時間になるんじゃないかというふうに思っています。それとあと、外国人に対する苦手意識がどうしても、僕を含めなんです、日本人にはあるように思いますので、そのあたりを取っていくというのも重要になるかと思います。

次のページに移らせてもらいます。①の提案の効果を高めるためにということなんです、この前もそうだったんですが民族衣装を着てこられたり、あとナツメヤシの実を持ってこられたりということをしていただいていたんですね。やはり目で見てとか肌で感じてというのが非常に重要だと思いますので、そういうところが極力、体験型の形でできればいいなと。授業で、前で説明するというよりは、できたら体験型という形をとりたいなというふうに思います。このためにはやはり、国際交流センターとの密な関係というか、協力というのがすごく必要で、あと教員の先生の協力もかなり必要になってくるかなというふうに思っています。

じゃあ①の提案に対する問題点というのは何なのかというところを考察してみました。やはり各学校の負担が少しふえる、受け入れの時間等をどうしていくのか、ここは今から落とし込んでいくところなんです、そのあたりの負担があると思います。あと、国際交流センターの人材派遣の負担もあるだろうと。もう一つ考えないとだめなのが、国際交流センターにとってのメリットというのが一体何なのかというところ

だと思います。これは2月ぐらいに、一度、国際交流センターの関係者にお会いしてこのあたり、何がメリットになって、何をしてほしいのかというところはちょっと詰めてこようかなというふうに思っています。あと、スタート地点として天王寺区全校でスタートするのか、それともモデル校を一つ決めてそこからスタートして、方法をしっかりと練り上げてから区に広げていくのかという形は今のところまだ決まっておりません。

次に2番目として寺子屋の設置という、もちろんこれ仮称なんです、というのを考えています。これはまた後でご議論いただきたいんですが、これは公立塾とも少し関係があって、並行するのかそれとも一緒のものなのかというところも、また含めてご議論いただきたいんですが、経済的な理由によって塾等に行くことができない子どもたちをサポートしていくのか、これはごめんなさい、まだビジョンが決まってないので、はてなです。ここを狙っていくのか、それとも2番目、勉強を教えることもすることながら、やはり勉強に対する興味をいかに引き出していくか、つまり理科の実験教室であったりとか、あとは例えばそれこそ外国の方が来て子ども、小学生であれば英語の絵本の読み聞かせとかでもいいと思うんですが。あともう一つ上がっていたのは、例えば音楽の企業とタイアップして、音楽を入り口としてそこを使ってもらうというのも一つかなというふうに思っています。ですからここはまだあれなんです、勉強をサポートするというよりもいろんな勉強とか音楽とか、そういうものの文化とかというものの入り口をつくってあげるという意味合いをメインにするのかというところを今日、ちょっと実は皆さんにご議論いただきたいところなんです。いずれにせよ、もし勉強のことで行くのであれば、近所のお兄ちゃんお姉ちゃんぐらいが教えてくれるのかなという、サポートセンターみたいな形にするほうがいいのかというふうに今は考えています。

寺子屋に対するビジョンなんです、決めておかないとだめなのは、やはりこの分野に関しては、学校というよりは区役所が主導で実施していったほうがいいのかとい

うふうに私は今のところ考えております。それと場所なんです、天王寺区の区役所の関係の場所でやるのか、それとも学校施設を一部お借りして、ここは相談しながらやっていくのかというところ、ここは今からの議論になってきます。それと先ほども出ましたとおり、学力とか経済的な問題を抱えた子どもをターゲットにするのか、それとも興味をそそるようなものをターゲットにしていくのかという、ここはまずスタートとしては、両方というよりは一つに決めて攻めていったほうが我々としても政策としてわかりやすいのかなというふうに思っています。

3番目なんです、これは恐らく全作業部会に共通して言えることかもしれないと思ってるんですが、垣根の低いボランティアというのを創設しないとだめじゃないかというふうに考えてます。これ、夕陽丘中学校とあと桃陽小学校からもちよっとお話があったんですが、少し今、介護の必要なお子さん方が来られていると。その介護にやっぱり教員がなかなかつけないと。それは人的な問題です。人的な問題、少なくともつけないと。ここでボランティアとかが簡単にお願いできて、ちょっと来週の一日お手伝いできませんか、お手伝いいただけませんかというような簡単なボランティアがあると非常にありがたいという話をいただいたんですね、そういう意味で。

あと片やボランティアしたいんだけど、何かどうやっていいかわからへんとか、ちょっと垣根が高過ぎて何に申し込んだらいいのかわからへんと思っておられる方も結構おられると思うんです。この二つをくっつけることがもしできれば、ニーズに対してすぐに応えられるようなボランティア団体ができればいいんじゃないかと。これに関しては恐らくほかの作業部会もそうだと思うんですが、よく似たちょっと悩みがあったみたいなので、これに関しては協同して進めることが可能じゃないかというふうに思っています。

その創出なんです、やはり人数もある程度集まらないとだめかなというふうに思います。恐らく100人単位は必要になるかと思います。留学生とかも入ってもらえるような組織にすると、地域とか防災というのも含めておもしろい組織ができるんじ

やないかと。ボランティアすることで、ある種、国際交流ができるということになれば、ボランティアに来られる方のメリットも少し大きくなるというふうに考えています。そういう意味から考えますと、主導するのはやはり国際交流センターか、もしくは区役所あたりが、協同でもいいと思うんですが主導して、旗印として動いていただいて、実際には、集める段は我々が協同しながらやっていくというような形でもいいのかというふうに考えています。

今後の作業部会の方針なんですが、この3つの提案の詳細を8月ぐらいまでに詰めればなというふうに思っています。これ以外の議題が出てきたときには適宜その議題に対して解決していきます。1枚目にも述べさせていただいたとおり、やはり将来を見据えた夢のある提言、夢を持てるような提言をしていきたいなというふうに考えています。今月、夕陽丘中学校の校長先生と桃陽小学校の校長先生とちょっとお会いしてお話ししたんですが、来月には国際交流センターの方とお話ししてちょっとそのあたりを詰めながら、また学校にも持って行ってという形をとろうかなというふうに思います。少し夕陽丘と桃陽から提案をいただいたのは、学校対応窓口をできたら一本化していただきたいと。親のことはこの部署、子どものことはこの部署というようにある程度どうしても縦割りのところがあるので、できたら一本化して、天王寺区にスクールソーシャルワーカーを、兼任でも構わないので一人ぐらい設置していただけると非常にありがたいというご提案がありました。これはご提案ですので、どうするかというところではないんですが、ご提案がありました。それと、国際交流の時間も使いやすい形にしていただけるとありがたいという話でした。例えば今度社会でそれこそ東南アジアをやると、東南アジアの留学生が来てその国について少ししゃべっていただけるというような形をとっていただければ、非常に入り込んで来てもらいやすいというような制度になるんじゃないかとおっしゃってました。あと、使いやすいボランティアのシステムに関しては、これも両校からご提案がありました。

以上が我々の部会の現状の報告です。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。

それでは、ご意見、ご質問等伺いたいと思いますけれども、新しい提案でございまして、8月までにいろんな方の意見も聞きながらまとめていくということで、進捗に応じてまたここで報告してもらおうということです。また、区の立場の判断も入れていかなければいけませんし、また後のほうで区長からもお話を伺えればと思いますけれども、そういうことも踏まえながら議論をしたいと思います。

ご意見、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

では、出る前に一つ私が。2番目の寺子屋、先ほどもお話にもありましたけども、公立塾とダブるところもあるわけですね。そこは前回、公立塾をどうするかということとでかなり議論したわけで、それとの関係のところも考えないといけないということが残っていると思います。

○田中（誠悟）委員

特にご意見を伺いたいのはこのあたりで。本当に経済的、学力的なところをサポートするものにしていくのか、当然最終的に2つとも、ということもできるかもしれませんが、スタートとしてそれで行くのか、それとも勉強に対する入り口として、勉強だけじゃないですが、文化に対する入り口として位置づけてやっていくのかというところを、我々もちょっと6人だけでは判断がつかかねるところがあって、広くご意見をいただきたいんですね。どっちから、天王寺区としてどっちをターゲットにしていることが本当にいいのかというご意見をちょっと伺いたいと思ったんですが。

○田中（英俊）議長

どうぞ。

○飛田委員

2番なんですけど、全然相反するものだとは思うのですが、一つ聞きたいのは、これを一体誰が教えるのかという、ボランティアに頼るのかというのが一つあります。そ

れと例えば塾に行けない子たちに対するサポートであれば品質みたいなもの、どこまでやるのというのがついて回りますし、理科の実験みたいなものであれば、最近学校でも危ないので先生があまり実験をしたくないというのがあって、そういうところの安全性はどうするのとかいうことも含めて、大分考えないといかんことは多いと思うんですけど。まず最初に一体誰がこれは教えるというふうに考えられているのかというのを聞きたいんです。

○田中（誠悟）委員

もしサポートの形で行くのであれば、やはりボランティアに頼らざるを得ないと思っています。例えばボランティアに頼るのであれば教育学部の学生であったりとか、そういうところに彼らの経験にもなって、我々にとっても得というようなところを探していくことができるかもしれないというふうに考えています。これは今のところ、可能性の話ですが。ですから、サポート体制であればボランティアという形を考えています。もし入り口ということであれば、やはりこれに関しては企業のある程度の参加が必要になると思います。恐らく企業に対してじゃあどういうメリットが出せるかというところになると思うんですが、入り口として捉えていただいて、逆にある程度の宣伝をしていただくことは可能、つまり、例えばビラを最後にまいていただくことは可能というようなことにしてあげれば、恐らく企業にとってもある程度のメリットは出していけると思うんですね。ですから、そのあたりは交渉次第だと思うんですが、今のところ僕はそのあたりで考えておるんです。ですからこれは塾が決まってからということになると思うんですが、そのあたりで落とし込めないかなというふうに今のところ想定しています。

○河村委員

いいですか。僕ちょっと今思ったんですけど、これ定期的にやるってことなんですかね。それとも、夏季とか、夏休みの間とかにする学習塾なのか、それとも日ごろずっとやってる学習塾なのか、これも議論の一つに入れていかないと。

○田中（誠悟）委員

それに関して、できたら僕は定期的なほうがいいのかなというふうには思っているんですが。サポートとなると特にだと思うんですが、少し定期的にサポートしてあげたほうが本来的な意義が出せるのかなというふうに思うんですが、もちろん、夏季集中ということも一つの方法だとは思いますがね。

○河村委員

それは1年生から6年生、中学校までであると思うんですけど、来られる年代層にもよるんでしょうけど、場所も天王寺区内、縦に広いじゃないですか。その広い端と端をどうするか、またこれ交通便とかもありますよね。

○田中（誠悟）委員

これ場所、どこを使わせていただけるかというのにもよると思うんですが、まずはモデル校からスタートしてもいいと思うんですね。あまり大きなシステムを最初からつくり上げようとするとは非常に難しいと思いますので。ある種モデル校から始めて、それが本当に評価されるようなものができるのであれば、これはほかの学校も参加してみてもいいかなというふうに思っていたらと思うんです。ですから、そこに関しては僕も最初から大きいものでボンとやってしまうよりは、少し機動力のある小さいものからスタートするのも一つの方法かなというふうに考えています。

○河村委員

小学校の学校区内でやるということですか。

○田中（誠悟）委員

もしサポート塾であれば。一つの入り口であれば、これは企業さんがもし入ってくるといことであれば、ある程度の人数を集めてあげるほうが企業側にとってはいいと思いますので、そうなった場合は例えば区の中央あたりの施設を使わせていただくというのも一つになろうかなというふうに漠然と今は考えています。

○河村委員

国語、理科とか、算数とか社会とか、全部ですか。

○田中（誠悟）委員

そこはまだ詰め切れてないですね。ただ、実はうちの作業部会は理系が多いので、理科と数学を何とかしようかという提案もありまして。ごめんなさい、まだ煮詰められていません。

○渋谷委員

いいですか、提案はちょっと本当に私のぱっと思いつきだったんですけれども、たまたまテレビのある番組で、子どもさんがプレゼンテーションをしているところを見まして。その子どもさんが、蜂は色を見分けられるかという実験をされてたんです。それを例えば青色のところずっと蜂蜜を塗って青色のところには甘いものがあるんやというのを覚えこませて、後で色分けしたらどうなるかなという実験をしてたんです。そういったことをふと思いつくというのもやっぱりすばらしいし、それを実際にやってみるということが私はすごいなと思って。実際の結果はやっぱり色を覚える、識別できるようになったんですけれど、たまに間違えるという、人間とちょっと似たような結果になってたんですけれども。そういったことであったりとか、あとは去年の夏ぐらいだったかな、ちょっとまた話題になったんですけれども、例えば夏のすごく暑い日、38度とか、最近すごく高くなったり、猛暑の日とか多かったですね。ただ、その38度の日はめちゃくちゃ暑いのに、38度のシャワーを浴びたらすごく気持ちいい。同じ38度なのに何でこんなに違うんやろうというのを、実際に愛知の中学校の学生さんが自分たちで仮説を立てて、それを調べていったという、そういった研究を文部科学省のサイトだったかでちょっと拝見して。

そういったふと疑問に思ったことをやってみるというところ、その興味がわくところというのをやっぱり刺激していくと、知りたい知りたいという欲求でどんどん自分から調べていったりとかという、そういうところがもっと小学校中学校時代から養われていけばさらにその先、飛躍的に、個人差はあるかもしれないんですけれども、やっ

ばりまず興味を持つというところ、ここを刺激してあげるのがおもしろいんじゃないかなということで今回提案させていただきました。教科についてはまだ全然議論してないので、逆に私はこの場でほかの委員様からご意見を頂戴できたらいいなと思っています。

以上です。

○原田（照久）委員

いいですか。寺子屋の設置ということですけど、今の内容というのは捉えようによっては別にそれ、学校の先生でやれることじゃないのという気がするんですよね。それを全く別の場所でこういうふうにつくるという本当の価値がどこにあるのかなと。だから学校の授業の中の、こういうことばかりじゃないけど、例えば一つのカリキュラムの中に一つだけ入れるとか、そういうことで十分対応できるんじゃないかなと思うんですけどね。

○田中（英俊）議長

私も同じ意見です。先生はそういう意識を持って子どもたちを教育しなきゃいけないわけで、そうするとじゃあこの寺子屋でやるのは学校でやることと、どこに違いを持って、どういう意味があるかというのを整理する必要があるのではないかなというふうに私は思いました。

ほかに。

○飛田委員

経済的理由というふうな項目が入ると、じゃあどこに線を引くというのが絶対出てくるような気がして。その線を引かれた人たちがわかってしまうというのが、ほんまにいいことかどうかわからないんですけど。そういうことも含めて何か、そこというのはどうなるんだろうという。

○田中（誠悟）委員

そこはまだちょっと議論が詰まってない状態で、経済的な問題を本当にデッドライ

ンにするべきなのかというところは、僕もちょっとまだ疑問点ですね。やはり弱者救済というところも区の政策としては考えないとあかんという、その難しいところがあって。塾なんて、別に行ける子は行けばいいじゃないということも一つだと思うんですね。ただ、じゃあ金銭的に無理な人はどうするんだという話を、なかなかそこが僕もまだ分け切れてなくて、ここで書かせていただいたのはそこなんです。興味を引く政策であればこれはもう全体的な問題になると思うんですけど、勉強をサポートするということであれば塾があるんだから、結局そこが拾えないところを拾ってあげないと区の政策としては意味がないだろうと、そうするとある程度、金銭的に行けないということが前提になってくるんじゃないかという。

○飛田委員

私は経済的にというふうな文言は外したほうがいいんじゃないかなと。もうちょっと違う言葉をしないと、何か違うような気もしたんです。ただ塾へ行けないというのは金銭的じゃなくても行けない子もいるわけだし、行きたくないか、もしくはすごく競争が嫌で行かない子も多分いると思うので、そうじゃない子というようなのも含めて何かいい言葉があればどうかなという気はしたので。ただ、すぐには考えつかないですけど。

○田中（誠悟）委員

また皆さん考えていただいてご提案いただければと思います。これは本当にたたき台ですので、まだその辺の言葉も詰まってない状態ですので、またお教えいただければありがたいです。

○神崎委員

私も教育・子育て・国際交流作業部会の一員なんですけど、先ほど原田委員が学校でできる内容じゃないかとおっしゃったんですけども、僕は逆に今そういった渋谷さんの、例えば蜂の色がどうのこうの、シャワーの体感温度だの、今学校でされてるんですかね？ 逆に、されてないからこういう場でやったらおもしろいんじゃないかと

いうふうに僕は感じてるんですけども。

○原田（照久）委員

先生方もいろんな方がおられますから、全ての学校で全ての先生がされてる、そういうことじゃなしに、ただその先生方の、例えば今の話だと小学生対象の興味を引くような、またそういう、自分で考えるとか観察力を身につけるためのそういう方向というのはやっぱり学校の先生は持つべきだと思うし、当然そういう先生はおられると私は思ってるんですけどね。だから例えば理科であれば理科に興味を持ちそうな話題というのは理科の先生とかそういう方は、結構一人でいろいろ持ってると思うんですよ。そういうものを子どもらが非常に興味を持って理解できるような教え方、話し方、これはできると思うんですけどね、難しいんですかね。私は先生じゃないからあれですけど、でもそうでなかったら、あまりにも小学校とか学校というのは何か色あせた、堅苦しい、そういう雰囲気になってしまうので、私はそうじゃないと思いますけどね。

○田中（英俊）議長

このテーマも後5分ぐらいでございまして。やはり一つの議論が始まるとなかなか終わらないというのはしょうがないんですけども。

どうぞ。

○酒井委員

③のことについて。こういうボランティアをつくってどこに派遣しようとお考えですか。

○田中（誠悟）委員

我々の作業部会としてはもちろん学校と、あと国際交流センターが何かするときには機動的に動けるほうがおもしろいのかなというふうには思っていますが、これはボランティア団体なので可能性としては無限にあると思います。つまりほかの作業部会にまたがって派遣することも可能ですし、というか、むしろ作業部会とかいう形をとる

よりは、天王寺区のために何かできるサポーターチームがあればいいんじゃないかというぐらいの発想なんですね。それは一つ、天王寺区として持つてると強いんじゃないかと僕は思いますね。ただ、あまり書類が要るとかいう形になってしまうと非常に申し込みにくくなるので、そういうことではなくてむしろフェイスブック等で、明日何人が要るねんけど、ぐらいの感覚で出せるぐらいのもののほうが、機動性が高くていいんじゃないかというふうに僕は思います。そういうのがつくりたいなというふうに思ってます。

○酒井委員

そのボランティアの権限とか、教育活動にまで踏み込んでいくのか、それとも介助だけを、休み時間等の介助をするのかというのはお考えですか。

○田中（誠悟）委員

学校に関しては介助だけで大丈夫だと思います。もちろんニーズがあれば学校と相談するという形も一つだと思いますね。例えば教員の資格をとる過程の方がもしボランティアで入っていただけるようであれば、それは学校の要望があればまた相談して決めればいいことだと思いますし。今のところ学校側としてはやはり誰か一人、介助につかないと、例えばトイレに行くとなると人手が要ると、そのあたりがまずはサポートできればいいのかなと。プラスアルファは本当にボランティア団体なのでいろんな形にご相談しながら変えていくことが可能だと思うので、あまり最初から僕はガチガチに決めるつもりはじつはないんですね。まずは介助というふうに思っています。

○酒井委員

わかりました。

○田中（英俊）議長

①の点、ご意見があまり出てないんですが、私からの。これはどこの施設ですか。府ですか。大阪市ですか。

○田中（誠悟）委員

国際交流センターですか。市です。

○田中（英俊）議長

市だと、こういった提案があると天王寺区だけ、天王寺区の中にありますけども、これをやるからということで市内の全体に声をかけるとか、というような発想は国際交流センターのほうにはないんですか。天王寺区だけでやりますという話ですか。

○田中（誠悟）委員

ちょっとまだ来月にならないと話が詰まらないのですが、今のところは天王寺区だけというか、もしかしたら小学校、とりあえずモデル校になるかもわからないんですが、とりあえずは交流してみませんかという程度のスタートを切ろうかなというふうに思っています。制度が大きくなってしまうと完全に我々の範疇から外れますし、議論としてはちょっと難しくなってしまうので、今のところはもう、コラボレートするというような、少し軽いタッチでまずは進めていこうかなというふうに考えています。

○田中（英俊）議長

ほかにご意見、ご質問ございますか。テーマごとに区長から発言いただきますか。

○水谷区長

では簡単に、今日は第1回目の発表ということで総論部分だったと思います。細部についていろいろと質問が出ましたけれども、田中（誠悟）委員もおっしゃっているように、そこについては今後詰めていくということで、それは当然なのかなと思います。出た中でも例えば寺子屋に関して、いわゆる救貧的な意味を持たせるかどうか、それが妥当かどうかとか、垣根の低いボランティアの定義は何なのかとか、個々の論点が出ましたが、それも全て次回以降また議論していくべきなのかなと思います。その上で、施策の練度をやっぱり高めるために内容を絞り込むということを意識的にやられたらどうかなというのが私の提案です。

例えばこの二つの方向性、一つは国際交流センターと連携した出前授業みたいな形

と、もう一つは寺子屋制度ですけれども、恐らく前者は学校側に対して協力を呼びかけて、授業時間にその内容を組み込むという授業時間組み込み型だと思うんですが、後者はどちらかというと学校施設でやるか市の施設でやるかは置いておいて、いわゆる放課後利用事業的なものだと思います。それぞれやっぱり性質も異なりますから、どちらのほう例えば実現の可能性が高いのか、どちらのほうメンバーのやりがいがあるのか、どちらのほうが練度を上げる可能性が高いのか、そこら辺もいろいろと考慮した上で方向性をぜひ決めていただきたいなと思います。

原田（照久）委員からもご指摘があったように、学校の先生でもやれてしまうんじゃないのというような疑念を持たれてしまうようなコンテンツだったら非常に残念だなと思うんですね。ですから、ここにも例えば田中（誠悟）委員は獣医さんですし、議長はやっぱり経済界でいろいろとご活躍された経験も持ちますし、多士済々お集まりですから、まず自分たちのリソースでどういったものが提供可能なのかということ棚おろしして、その上で今の学校現場の保護者の方、あるいは子どもさんがどういうニーズを持っているのかと、それで学校で満たし切れているニーズと、満たし切れていないニーズをやっぱりある程度見える化して、そこでじゃあどういう層に対してどういうサービスを行っていくのかという、いわゆる顧客のセグメンテーションというのをやっぱり明確に行う必要があるのかなというふうに思っています。ですから、そこら辺、今後細部を詰めていくという形で議論していただければいいんじゃないかなと。

自分の考えをしっかりと持ってそれを他人に発信すると、自者と他者の違いを理解し受け入れる能力を持った子どもを育てると、その大きな理念といいますか、方向性はまさにそのとおりだと思うので、ぜひやっていただきたいなと思います。

すみません、長々と話してもうここら辺で終わりたいんですけども、最後にやっぱり感覚的に学校では提供できないサービスという点について思うのは、昨日、天王寺区役所のほうで区内の小学校の教員の方々が集まって研究発表会というのがあって、

私も時間に限りがあったので冒頭部分だけだったんですけど参加させていただいて思いました。やっぱり、僕も20年ぐらい前、小学生だったわけですけども、小学校の教育内容というのは大きく変わった部分もあれば、あまり変わってない部分もあるわけです。それは何かと云ったら、やっぱり自分の言葉で自分の考えや思いを表現する子どもを育てるところを、ひとつ強調してやっているんですけども、考えを表現する前提は、やっぱり練りに練られた考えを持っているということだと思えます。考える力という部分においてももう少し教育現場が踏み込む必要があるんじゃないかなというふうに思いました。

具体的に申しますと、例えば日本の国語教育というのはいわゆる論文みたいな説明文よりもどちらかというと、別にそれが悪いわけではないんですけど、ごんぎつねとか、そういう童話を読んでこの登場人物の心情はいかほどであろうかと、このとき的情景はどのような情景だろうかと、自分の感じたことを言ってみようというその意見交流をしたりとか、その感想の交流をすることは教育現場で提供していても、ロジックの部分についてはあまりそういう教育をする機会がないのかなと思います。やっぱりここら辺を、自治体によってはディベート教育に集中的に取り組んでいるところもあったりしますが、もちろん、この区内の小学校でもそういうのを意識的に取り組まれているところもあるわけですけども、提供できているものと提供できてないものは何なのかという明確化をしてやる必要があるんじゃないかなと思います。

こうやって皆さんはずっと戦略会議で議論してきましたけども、やっぱりどうしてもなかなか初め、議論がかみ合わないというのを経験されたと思います。やっぱり議論がかみ合わない、何のために人は議論するかと云ったら、よりよい答えに行き着くために議論をするわけですから、どうやったらかみ合う議論ができるのかと、その前提となる基礎的な論理学の教育であるとかディベートの教育であるとか、というのをある程度かみ砕いて幼少期から提供するにはどうしたらいいのかとか、これは私、思いつくまま話していますけれども、ぜひ皆さんにもちょっと考えていただきたいなと

思います。

例えば、大人同士でもこういう議論があります。戦争は人がいっぱい死ぬからダメだ、反対だという人に対して、いや、それはやっぱり経済的な利益を守るために大切なんだと言いますと。これは一見議論としてかみ合っているように見えますけれども、人が死ぬからダメだという人に対して経済的利益を言っても、これはかみ合っているようでかみ合っていないですね。お互いにやっぱりプライオリティを置いているものが違うわけですから。そこをじゃあ相手の論を受けとめた上で、それを含めて言及する力、反論する力、異論を述べる力というのをやっぱりここらで考えてみる必要があるんじゃないのかなというのが、私が今現在思っているところでございます。ご参考に聞いていただけたらと思います。

以上です。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。

そうしましたらこの第1のテーマはこれで終わらせていただいて、2番目の防犯・防災・地域社会の作業部会ですが、河村さんからですか。お願いします。

○河村委員

防犯・防災・地域社会の取組案についてです。めざすところは、安全・安心なまちづくりで、天王寺区は上町台地にあり地震での津波被害が少ないとされていますが、一方で区内に木造密集地や長屋づくりの住宅、商店街での地震被害や火災での被害が多いとされています。独居やお年寄りや障がい者に対する避難救助等が必要とされている問題が残っております。天王寺区内の各地区の連合町会には災害救助青年部があり、災害時に活動の中心となることでしょう。災害救助青年部、災青というんですけども、この災青がいろんな体験をされていますのでそのときになれば、災害時には皆さんのリーダーとなってどんどん減災に力を入れますと思います。これに対して被害を最小限にどのように予防準備をするかで減災につながってくると思います。

防犯では、必要なこと、被害に遭わないようにどうやってするのか、どうやって相談するのか、これはどんどん対策ができます。お年寄り、障がい者の住みよいまちづくり、歩道や道路のバリアフリーをめざすことで天王寺区の向上につながるとわれています。

基本的な考え方は、区政に取り入れて街頭犯罪の減少、防災をつなげていきます。高齢者、独居、障がい者、災害、火災等が起きた場合どうやって助けられるか方法を考えていかなければいけないと思っています。天王寺区の高齢者、独居、障がい者の把握も見守り等にて必要であると思われます。

テーマ1、天王寺区内の街頭犯罪。全国で大阪が1位になるぐらい、ひったくりが多い地区となっております。ひったくり犯の検挙や被害に遭わない方法を警察や区の出前講座で広げてみてはいかがかなと思っています。

出前講座の推進。ひったくりや振り込め詐欺の場合、これメリットは無料で出前講座ができるとか、ひったくり防止カバーがもらえるとか、こういうメリットがあります。デメリットは、申し込みから一カ月以上かかると、区のほう、警察のほうとの出前講座になりますので、警察のほうで緊急な事件が起きますと延期になったり等もされますので、一カ月ぐらい見ていただいたほうがいいかなと思われます。区か警察、どちらに申し込みをしたらいいのか、これがわからないという今の現状があります。各連合町会でする場合は、非町会員が参加しにくいというデメリットもあります。

次に行きますけれども、防犯カメラの普及。防犯カメラをつけることによって街頭犯罪抑止力になります。区がネットワークカメラを配備してはいかがかなと思うわけです。その街頭犯罪が多い通り、地区にインターネットの環境がある住民に協力を促して、ネットワークカメラをつけてはいかがかなと。区役所にネットワークカメラのサーバーを置き、管理をすると。警察等の捜査依頼にのみ協力するということで。区が防犯カメラをつけることによってアピールし、街頭犯罪の抑止につながるとされています。国道25号線付近と細工谷、真田山付近がひったくりの被害が多いとされてい

ます。

次は防災になります。防災の意識の向上、減災につなげる。

天王寺区内で木造密集地や高齢者・独居・障がい者の対策について。防災・火災訓練の出前講座をふやす。防災訓練をするためにはどの手順が必要か、マニュアル化が必要かと思われます。防災で何を学ぶか、必要であれば人命救助、消火訓練、疑似煙体験、起震車等の体験もできます。これは事前に消防局に依頼をしないといけないので、できれば3カ月から半年ぐらい。起震車という、トラックに地震の装置がついている車も、これも大体4カ月ぐらい前から予約が要るということです。

次に行きますけれども、天王寺区内の備蓄倉庫の推進。現在、小学校、中学校に備蓄倉庫があり、天王寺区内で公園や広場で食糧、機材の備蓄倉庫が少ないと思われます。備蓄倉庫は市営住宅、府営住宅の敷地内に倉庫を設置して備蓄をしてはいかがかなと。真田山、五条、寺田町公園にも備蓄倉庫を設置してはいかがかなと。マンションや共同住宅に協力を促し、備蓄倉庫を設置。備蓄は大規模・中規模・小規模に分け、できるだけ多く設置できるのが望ましいと思われます。天王寺区役所で備蓄確認ができていない、民間（企業、学校、地域、マンション）に何がどれだけどこに備蓄があるのか把握をする必要があると思われます。

被害想定徹底調査。区内の危険箇所の再認識です。倒壊・半壊による負傷、住居の耐震強化、補強の推進。火災の消火想定。ガス管の損傷によるガス漏れの火災。倒壊による道路寸断・救助や消火活動の妨げになる可能性を把握。木密地区になりますと倒壊になると道路が寸断されますので、この消火活動等の妨げになる可能性のところを十分に把握していないといけないと。これは区役所もそうですし、その地域も確認が必要だと思われます。送電がなくなった場合の自宅用医療機器等の認識も必要かなと思います。家具固定、転倒予防、これもどんどん推進していかないといかんかなと思います。

次、天王寺区の福祉について。サイレント・マジョリティの意見を区政に反映させ、

障がいのある住民も住みよい天王寺区を目標にめざします。

まず現状報告なんですけれども、現状は、天王寺区総人口 70,814 人に対し、3,280 人が障がい者手帳の交付を受けています。大阪市内でも少ないほうなんですけれども、公的サービスの利用一例、障がい者の手当等を受けている障がい者の方、91 人ですね。平野区は 504 名なんですけれども、これは障がいのある方が十分に公的サービスを受けられていない可能性があると思います。ニーズの調査、潜在的な利用者の把握が必要かなと思います。

天王寺区内で歩道の整備がされていない地域があり、車椅子での走行が困難な箇所が多数あります。歩道のバリアフリーの推進を促すと。地理的に天王寺区内の地理が圧倒的に坂道が多いということで、車椅子の使用、介助者、高齢者の負担になっているところが多々あります。歩道が狭いところがあると。事故につながる危険性。公共施設にも段差が多い。障がい者、高齢者に不親切なところがあると。観光資源のバリアフリーの対応が中途半端になっています。今、四天王寺、天王寺公園などもどんどんバリアフリーが進んでるんですけれども、やっぱり昔からあるところなので、バリアフリーが全然進まないのは、もうこれは仕方ないところなのかもしれませんが、どんどんバリアフリーを進めていってもらいたいなということで書かせていただきました。

次、人権教育。天王寺区社会福祉協議会「ゆうあい」が区内小中学校に出向き、車椅子体験授業を行っています。内容は検討、提案を含めて現在調査中とのことです。

災害時の対応。福祉避難所なんですけれども、高齢者、障がいのある人が避難する際に開設する避難所。現在、天王寺区内で 3 つの施設があります。たまつくり苑・きたやま苑・天森養護老人ホーム。福祉避難所の協定を結んでいます。高津学園とゆうあいが現在協定交渉中です。どんどん福祉避難所をふやしていったほうがいいかなと思います。

その他、障がい者雇用問題や生活支援等に対する意見をまとめて提示していく予定

です。

次、独居・高齢者対策・障がい者、見守り等が必要な方がどの住宅にいるかの把握ができていない状態です。ヘルパーに尋ねても個人情報という壁があり、どのように対応していくかが、これが論点です。

独居者、障がい者の見守りサポーターの強化、ネットワーク推進員、民生委員、生活支援員、区社協、ケアマネジャー、ヘルパー、見守りサポーターの連携の強化、情報共有が必要かと思われます。

改善点。区役所、行政のバックアップ体制、区役所担当者を明確にする。行政として情報収集、対応、担当者に連絡。休日、夜間の対応が必要。災害対策の活用。

3番、サポーターの確保。公募や地域の口コミの輪、大学生・専門学生・区内高校生とかをサポーターにしてはいかがかなと。これもいろいろ、ほとんどが公募になるんでしょうけども、この公募の仕方もまたいろいろ議論の一つであると思います。

利用者の確保。行政の名簿を活用した調査。地域ネットワークを利用した調査。区広報紙による希望者の募集。

5、緊急連絡先・親族の調査。サポートの必要な方にアンケートをとって、情報を仕入れるということですね。親族への緊急連絡先の調査。かかりつけ医・ケアマネジャー・ヘルパーの連絡先。病気・薬等の確認も必要かなと思います。

いろいろ説明させていただいたんですけれども、命を大切にする政策をどんどん進めていていただきたいなというのがありまして、ひったくりでも、かばんを引っ張られて転倒して頭を打って、亡くなってる方も全国にはいらっしゃるんで、ひったくりを天王寺区内で、大阪市内で、起きないようにどうやってしていったらいいのか、これを含めてまたいろいろ議論していきたいなと思います。

福祉に関しましても、細工谷の玉造筋ですか、あそこの筋になりますと歩道が狭くなっている場所もあるんですね。かまぼこ状態のところに来ると、車椅子が足をとられて、もし車椅子が転倒したらすぐ横を車が走ってますので、こけたらひかれるかも

しれないという危険性があります。これをなるべく早く、早い段階であそこの整備に入っていただきたいなという要望もあります。

独居の高齢者、障がい者の見守りサポーターに関しましても、生活支援とかになりますとやっぱり個人情報上、教えられる場所、人も限られてくるんですね。やっぱりヘルパーさんに聞いても教えてもらえないという現状もあります。どうしても命にかかわることなので、情報共有が必要かなと思われま。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。このテーマは前回、区長の将来ビジョン、区長素案の中で議論したところとも重なります。あのときも話がありましたけども、区のマターではなくて市のやることについて、区としては意見を言ったり要望したりということはできるという話もありましたし、あるいはサポート体制をどうするか、たしか越村さんからいろんなアイデアもいただいて、実際どうやってつくっていくかというのもされたと思います。そういう意味では重なっているところもございます。

それからひたたくりにつきましては、これは区の仕事かどうかということもあって、警察が本来的にどうやろうかということ考えてるんで、区長が区長のビジョンの中で言えることかどうかというのは後でまたご意見いただければと思いますけども、このチームでこれから議論していくことに、意味があるのかどうかということも整理しなければいけないかと個人的には思っていますけれども、これまた皆様の意見もこれから聞きたいと思います。

どうぞ、ご意見、ご質問等あればお伺いしたいと思います。

○田中（創三郎）委員

ちょっとすみません、テーマ1で、パトロールの強化とかいうことは考えておられますか。

○河村委員

パトロールの強化なんですけど、今、原田照久委員がパトロール、いろいろされて

ますので原田照久委員に説明してもらったほうが。

○原田（照久）委員

すみません。ご存じの方もおられるかもしれませんが、聖和校下では聖和寄り合いまちづくりというふうな一つの、聖和地区をより住みやすいまちにしようと、そういう目的でもう4年半ぐらいになりますかね、20名ぐらいの人数で区役所の主導でいろいろそういう形で活動しております。その中で聖和地区でもアンケートをとりましたら、住んでいる人が何を望んでいるかというところと防犯、防災、きれいなまち、まちの美化、そういうふうな項目がやっぱりトップ3に挙がったと。そういうことで、関連もするんですけど、防災に関するいろんな「聖和防災フェスタ」とかそういうイベントをやるというか、これはこの前もちょっとお話ししたんですけども。

それと最後に防犯ということに関しては、ちょうど1年前ですかね、やはり防犯ということでパトロールをしようと。パトロールだけでは参加する人も限られてくるということで、皆さん地域でよくご存じだと思んですけども、夜歩いておられる方、おられますよね。健康のために、ウォーキング。そのパトロールとウォーキングを一緒にして、いわゆるウォーキングパトロールという形で毎月第4金曜日の9時から、この前もちょうど作業部会の終わった後すぐ行ったんですけども、これ実施しております。そういう形の中でやるというところ、ちょうど1年たつんですけども、数字的な効果って非常に把握しにくいんですよ。ただ、1年回ってみますと、いろんな暗いところ、そういう大通りじゃなしに暗いところをよく回るんですけども、そういうところで行き交う人に声をかけると。こんばんはとか。向こうからも返ってくるとかね。そういうコミュニケーション的なものも図れるし、無灯の自転車、これが非常に多いとか、そういう人には、電気点いてないよ、とかそういう声かけをしたらとか、そういう形の中での活動をしております。だから、ほかの区から参加される方もおられます。それから、ほかの校下の方も参加されております。そういう形のものが広まればいいかなというふうに思います。だから、ほかの校下でやられてるかどうかというのは私

も詳しくは知らないんですけども。

○河村委員

青パトが今、よく走ってるんですけど、青パトが走ってるからといって、犯罪が減少するかと言ったら、ちょっとこれ疑問なところもあるんですね。犯罪者として考えてみたら、通り過ぎるだけだったら別に気にする必要もないので。歩いてる人に顔を見られるのが一番嫌なのかなと。

○原田（照久）委員

恐らくパトロールして、逆の立場に立ったら、悪いことをしてやろうという人がいたら、何かここはいろいろ人がライト持って夜回ってるなど。何か悪いことしにくいまちだなと。そういうふうな抑止力にもなるんじゃないかなというふうに思いますけどもね。

○田中（英俊）議長

よろしいですか。ほか、どなたか。

○河村委員

よく警察のほうで、防犯カバー、ひったくり防止カバーというのを、配っているんですけども、やっぱりあれがあると自転車のひったくりは減少してるんですね。やっぱり、持って歩いている人をターゲットにされやすくなってるのは、これ現状なんです。警察のほうも予防策としてひったくり防止カバーはできるんですけども、それ以上のことはできないんですね。犯罪が起きないと動けないというのもありますし、パトロールしていても、相手は自転車とか原付とかバイクとかでひったくりをするので、やっぱり歩いてパトロールしたりとかが一番効果的なのかなと思います。

○田中（英俊）議長

今提案された中で、例えばテーマ3につきましては、前回も高齢者の地域福祉のところでは障がい者も加えてほしいというような意見があって、それは考えますと区長からお話があったりしまして、そういう意味では高齢者地域福祉の強化というビジョン

と、それから災害対策リテラシーの強化というところと、大分重なってる議論をされていると思います。その中でひったくりは前回、その中には入ってないという話で、地域の中で自主的にやっているということはありますけれども、区政としてどうするか、区政はどこまで関与できるかといったところもあると思います。

まだ議論はつきないと思いますけども、その点につきまして区のほうから若干考え方をご説明いただいたほうがよろしいんじゃないかと思います。

○水谷区長

ありがとうございました。これも先ほどの作業部会の発表と同じで、テーマ1から3まで出されていますけれども、それぞれのテーマをまずどこから着手して進めていくのかという優先順位をつけるなりして、ある程度の内容を絞り込んでいただけたらと思います。

今、議長からご指摘としてあった点についても含めてご回答いたしますと、まずこのテーマ1の街頭犯罪のところなんですけど、私もやっぱり議長がおっしゃったように、基本的に防犯は、例えば警察という生活安全課とか、警察が一義的に責任を持って行う領域であるというのは間違いないと思います。区役所として同じ防犯というテーマでやるときに、機能的にその両者が連携できるような役割分担は必要ではないかと思っています。

例えば、私も前の仕事が記者だったわけですが、複数の自治体を取材していますと、区役所の、市役所の職員が街頭に立って、警察も街頭に立って一緒に防犯を呼びかけるティッシュ配りをしているとか、よく見られる光景なんですね。やっぱり私がそれを何度も目にしたときに、こんなやっぱり、もちろんティッシュ配りの効果そのものの議論はまた別にして、こんなもったいない連携のあり方、こんなアリのバイ的な連携のあり方があるか、というふうに思いました。やっぱり同じ場所で、同じときに、同じように立って活動するのが連携だったら、そんな単純な話はないわけで、区役所には区役所にしかできない防犯の取組があるし、警察には警察でしかできない取組があ

るというふうに思うんですね。

例えば今、振り込め詐欺に見られるような、いわゆるなりすましの被害というものが、これは大阪のみならず全国的に横行しているわけですが、警察も警察でいろいろと取り組んでいるわけですが、例えば区役所は一日にかなりの方が来庁されて、1階の窓口で住民票の発行を受けたりとかされるわけです。こういう方の中にはお年寄りの方も非常に多いですから、例えば窓口で住民票の交付を受けた後に、今こういう被害が相次いでいますから、不審な電話がかかってきたら、すぐにまず切って関係機関に連絡してくださいとか、一人一人にダイレクトに呼びかける取組というものを、区役所ならではの取組だと思いますから、徹底するように職員には指示しておるところでございます。これも同じ発想で、区役所でしかできない取組というのを、このひったくり等街頭犯罪の防止についても取り組んでいくべきではないかと思えます。

例えばこれ、河村さんも出前講座の推進ということで言っていただきましたけども、区役所としても来年度以降、出前講座を強化していこうということでイメージしておるところでございます。しかし、僕の感覚からすれば出前講座だけでもまだ足りないと思いますね。出前講座というのは向こうが電話をかけて予約しないといけないという、お客さんの能動性を前提とする取組です。しかし、そうやって能動的に防犯対策の講座をやってくださいという人は、ある程度、防犯のリテラシーのある人だと思います。問題はやっぱりそういう意識すらない人に、いかに防犯に関連した情報を届けていくかということで、今天王寺区でも20人ほど「あなたの声をつなげ隊」という能動的に区民にアプローチするチームを編成しておりますが、そのチームに例えば防犯に関するリーフレットを持ってそういう、例えばひったくり被害が多い地域では周知に回るとか、そうした限りなく幅広い層に情報を届ける取組というのをも考えてまいりたいというふうに思っております。

それから、この防犯カメラの普及についても今、ちょうど予算編成時期ということ

で予算要求を当区からもしておるところでございますが、やはり行政が責任を持ってカメラを設置するというスタンスは今後続けていかないといけないと思います。

それから、このテーマ２の防災意識の向上ということですが、マンション防災、天王寺区もここ２０年で集合住宅の比率が７０％だったものが８０％に上がるなど極めてマンションの建設というものが続いている状況がございますから、やっぱりそうした層にも確実に備蓄の恩恵が行き届くように、積極的に考えていきたいということで、これも来年度に向けて準備しておるところでございます。

それからこの福祉について、３番目のテーマなんですが、これについて本当に障がいのある方が天王寺区でこれだけ、３，２８０人いて、このうち公的サービスを十分に受け切れているのが１００名にも満たないという現状は、やっぱり区役所としても重く認識しないといけないことだと、今日の発表を聞いて改めて痛感いたしました。これについてもちょっとまた内部で検討して、またこの会議で一定の方針をお示してきたらというふうに思っています。

それから独居高齢者の対策ですが、やはり個人情報問題というものが非常にネックだと思います。やっぱりその国法である程度、管理のあり方が規定されているというところもあるわけですが、今日やっぱりご指摘いただいているように個人情報について地域で共有するとか、そういうことをしておかないといざというときに対応が難しいという状況、これは厳然とあるわけがございますから、これも行政のほうでやはりその独居高齢者の孤独死の防止とか、これは完全に責任を持たないといけないテーマだと思いますので、取組を進めて明確な方針を示せたらと思います。

駆け足で説明させていただきましたが、以上です。

○田中（英俊）議長

私勝手に区長に振ったんですけども、我々の提言はあくまで区が何をするかということを中心に提言しないと、せっかく作業したものが生きてこないということにもなりかねませんので、その点、ちょっと注意しながらやっていく、その場合、区役所で

議論が進むのであれば、そのテーマについての担当者なりにちょっと来ていただいて、質問して答えてもらおうとか、そういうような心配りを区のほうにもお願いできないかというふうに思います。

このテーマにつきましてほかにご意見とかご質問、お持ちの方いらっしゃいますか。
どうぞ。

○原田（照久）委員

提案なんですけども、作業部会のほうでも少しお話しさせていただいたんですけども、やはり防災の中でいわゆる地震が起きたら、一番人命に直結するというのは家具が固定されてなくてそこで動けなくなる、また、死んでしまうとか、そういうところが一番重要なんです、人の命を守るという意味合いでは。あと、避難するとかこれも大事なんですけど、まずその地震の瞬間に亡くなる人が圧倒的に多いわけですね。そういう意味合いで家具の固定というのは非常に大事なんですけども、いろんな防災とかそういう形の中で、家具固定のワークショップをしても、そこに参加される方というのはそのときに、いろんなビデオとかそういうもので説明すると、ほぼ100%近い、9割以上の人が必要だというのはそこで感じてくれるんですよね。でも次回のときに、しましたかと聞くとしていないんですよね。3割とか、それぐらいの比率しかしていないと。そこに何日かたつと、そういう重要性は忘れてしまうんですよね。

そこで提案なんですけども、学校の授業の中で年に1時間でいいから家具固定の大切さ、そういうものを小学生の子どもにわかってもらうと。そうするとその子どもが家へ帰って、「お父さん、うちの家それしてる？」というか、お尻をたたくというか、そういうふうなことをしていただければ。この区将来ビジョンでも27年に50%をめざすというか、そういう数字が挙がってましたよね。それが当然、現在はもっとはるかに低いわけですよ。そういうことを上げていこうとすれば、別な切り口からのそういうふうな学校側の協力、年に1時間ぐらいなら、ちょっと話せばやってもらえるんじゃないかなと。人命にかかわることなんで、そういうふうな働きかけを

していただければというふうに思います。

○田中（英俊）議長

どうぞ。

○栗谷委員

災害、地震等はいつ起こってくるかわからないというのがあるんですね、朝、晩、夜中という。やはり僕ら住んでいて何が大切かって、そういう情報共有、ここに住んではった人がいない、ここに住んではった人はいる、朝型、夜型、昼型のそういうシミュレーションをしたときの各ブロック長、そういう災害救助青年部というのがいますけども、やはり仕事の時はいないですね。昼には彼らは仕事に、会社に行っていて、いないと、そういうときには老人会の人にそういう担いになってもらうとか、やはりあそこに人がいたけどどうなってるんやという、そういう一つの隣組のところにブロック長を置いて、さあここでみんな集まったな、そしたら小学校へ逃げようという、そういう小ぢんまりとした対応が僕は必要になってくると思います。人材は災害救助のほうがたくさんいますけども、やはり昼に災害が起こってしまったら、全然地域には誰も残っていないというのがあると思うので、そういういろんなシミュレーション、朝型、昼型、夜中型という、ちょっとした地域の中でのブロック長みたいなのを置いてもらえれば、みんなの安全につながるんじゃないかなと思います。

○田中（英俊）議長

それはまたプランの中に取り込んでいただければと思います。

ほかにございますか。

そうしましたら、とりあえず30分過ぎておりますので、すぐに時間がたつてしまいます、3番目のテーマに入らせていただきます。シティ・プロモーション作業部会から、田中創三郎委員、お願いいたします。

○田中（創三郎）委員

よろしくお願いします。シティ・プロモーションチームとして何をやっていくかと

ということなんですけれども、先ほどからのお話でちょこちょこ出てたんですけれども、やっぱりこの戦略会議は区としてどういうことをやっていくか、ということを提案していくということが一つの役割ということだったんですけれども、ちょっとこのシティ・プロモーションチームで話していた中では、むしろ区としてよりも、いやいや区が今までやり過ぎてたんじゃないかという意見も出ておりまして、もっと住民を巻き込む動きが大事なんじゃないかなという考え方をとっています。ですので、もちろん区としても体制、情報発信を整えていく、強化していくということは大事なんですけれども、一方でやっぱり住民を巻き込むということ、そういう住民を巻き込むための仕組みづくりということをちょっと冒頭に書かせていただいております。

そういう情報発信のための仕組みづくりというのを考えたときに、一つは情報発信の方法論であったり、そういう話になってくるかなとは思いますが。あとは、もう一つはやはり情報発信の方法だけじゃなくて、発信の対象となる、まち自体が取り上げられるに値するような、そういうふうなおもしろいまちになっていくこと、そちらも大事なことだと思いますので、そういった面につきましてもシティ・プロモーションというのは、ちょっと対象範囲が広いですけれども、考えていけたらなと思っています。

一つ目の課題ということで、情報発信についての方法ですけれども、その中で一番核になってくるのがイベントの強化ということですね。現在もまちを盛り上げるために、いろんなイベントがされていると思うんですけれども、どうも私も区外に住んでいる人間なんですけれども、区外の人間から見てもちょっとPRが。小ぢんまりとしたイベントは結構あるんですけれども、それがつながっているのかなという思いとかはあります。実態としてそういったイベントに地元の住民がどれだけかかわっているか、企画段階からどれだけかかわっているかということ、非常に寂しい状況らしいというお話も聞きまして、実際は区役所さんのほうが、かなり実行段階から企画運営まで、実務の面でかなりの割合で携わっているというお話も聞きましたので、その事実にはちょっとショックを受けている次第で。特に情報発信とかの好きな、そういうフェイス

ブックとか新しい情報機器を使うことが好きな若い世代をもっと取り込むことができれば、という仕組みづくりを特に重視したいと考えています。

あとは、区内にも限定せずに、周辺の中央区とか阿倍野区とかいったところの活動的な人たちとも、つながっていくことができれば、まちを訪れる観光客とかは別に、天王寺区を、ここからここが天王寺区やとか言って意識して回られるわけではないと思いますので、外から来られる人にとって区境というのは関係ないので、やはりそういった区というものを越えて周辺ともつながって企画していく、そういうための仕組みづくりを交流の中で考えていければなと思っております。

あとは専門学校生とか。天王寺には専門学校とか私立高校も多いですし、あと留学生もたくさんおられるということで、そういった人たちも企画段階から加わっていただければなと思います。

あとその方法論的な話で、一つの考え方としては②のところですけども、もっと五感に訴えようという意見が出ております。特に食べ物とか飲食店というのはやっぱり取り上げやすい。行った人はちょっとでもおいしいものがあつたら、それは誰かにすぐ伝えたくなりやすい、そういうアイテムなので、行った人が即発信者になってくれる可能性が高いと思います。なので、その食べ物とか飲食店というものをもうちょっと活用、既存のお店を活用することが必要かなと。あとはその絶対数、店の数ももっとふえてほしいなという、そういうふうにも思っています。

あと、天王寺はちょっと音が少ないんじゃないかなという意見がありまして、やっぱりイベントのときは音につられて、ふらふらと来てしまうという人もあると思いますので、音の出る、音で引きつけるようなイベントとかも考えたりしたらどうかという意見がありました。

歴史のまちですので、ちょっと飛びますけれども歴史のまちということを全国的にアピールしたいと。そのための絶好の機会が2014年、15年の大坂の陣400周年ということで訪れるので、これは区の方針のほうにも書かれていたんですけども、

これは絶対にやらなければいけないことだと考えていますので、こちらはこのシェイ・プロモーションチームでも中心課題の一つとして取り上げていきたいと思っています。早速、具体的に河村委員のほうから「THE戦国博」という形で具体案が提案されていますので、そちらは後ほど取り上げていきたいと思っています。

方法論的な2番目としては、体制の強化ということで、掲示板とか区役所といった道具をどうやって活用していくかという話です。こちらでも河村委員のほうから御提案がございましたので、最後のほうで触れさせていただきたいと思います。

あとは、発信する際にインパクトとかいうものも重視して、いい悪い、失敗するリスクというのもあると思いますし、つい先日もちょっとこの前区長に教えていただいたんですけども、「おいしい！桃太郎市」というのがあったみたいで、実際にホームページも見させてもらいました。せんとくんとかも最初は失敗だと言ってたたかれているうちに人気者になってしまったという例もあるので、やっぱりインパクトというのもリスクを恐れずにやっていくことも大事なかなと思います。

あとはターゲットですね、イベントの企画なんかにしても、もっと年齢層とか職業を絞った発信というのは意識できるかなという思いはありまして、イベントのチラシとか宣伝を見た人が、じゃあこれはどんな人が行くのかな、というふうなイメージがつけば。逆にそれがつかないと、なかなか自分向きやな、というふうなイメージがわからなかったら足を運んでももらえないと思いますので、そういったターゲットを絞った発信というのでも意識する必要があると思います。

そして、方法的なところの最後ですけれども、このチームの役割というのはこの戦略会議のほかのチームの人たちの情報発信を手助けして、手助けといったら上からの的な発言でちょっと恐縮なんですけれども、アイデアを出したりとか、単純にこういうやり方があるよとかいうふうな意見が提案できれば、それこそうちのチームには内本委員というプロがおられますので、そういう、委員の個々人の特技を活かした情報発信ということも、チームの中にとどめないで、それを共有し合うというふうな方法も考

えていく必要があると思います。

次にまちの演出ということで、天王寺区という特性、まちの特性が3大ターミナル、天王寺駅、鶴橋、上本町というふうに外側にターミナルがあって、それに囲まれているという構造上、どうしても真ん中のほうに人が流れにくい構造になっていますので、もうちょっと外側から真ん中のほうに歩いてもらえるような、来てもらえるような動線を意識したまちづくりというのができていければなと思います。そのための最重要戦略拠点、もちろん鶴橋とか谷町9丁目、上本町あたりも大事なポイントであるんですけども、ちょっとまずは天王寺北口ということに焦点を絞ってアイデアが出てきております。

1つ目が四天王寺西門参道の活性化ということで、特に大師さんのとき、毎月21日の大師さんのときの集客力をもっともっと高めようということで、具体案、こちらでも河村委員なんですけれども、四天王寺楽市楽座という提案があります。

それからちょっと飛びますけれども、天王寺公園、このあたりをもっと活性化したいという意見がありまして、特に天王寺公園ですね。こちらはあまりイベントが企画されていない。割と、いつ行っても静かな状態で、どれだけ利用されているのかなという気が、疑問がありまして、これは非常にもったいないことだと思うので、これも大阪市の管轄なんですけれども、やはり住民サイドからこういうイベントができるんじゃないの、という提案がもっともっとできていけば、それを市が、じゃあやろうかというふうに取り上げていく、そういうふうな流れが生み出せばなと思います。

動物園についても大阪市の管轄なんですけれども、ちょっとPR方法が弱いという声がありまして、JR環状線の方面から見たときに看板とかがあんまりないので、ちょっと電車に乗ってる人たちから見て、ああ、天王寺動物園だ、今度行こうとかいう気持ちに、刺激になってないという、そういうもったいない点があると思いますので、そういった面も考えていければなと思います。

あと、以上が概略になってくるんですけれども、この後は具体案ということで何点

か出ていましたので、簡単にご紹介させていただきます。

一個目が、四天王寺西門参道の活性化ということで、樂市樂座。毎月21日の、骨とう市とか出てるんですけれども、どうも出店してる店がやや。境内はいいんですけれども、四天王寺の参道の付近とかが、もっと店があったほうがいいのではないかなという、そうすればもうちょっと寺に行くまでのところで活気が出るのではないかなということで、そのときに市民、住民の方が自由に店を出せるという、今風に言えばフリーマーケットですけれども、それをあえて歴史のまちということで、こういった樂市樂座という名前を使えばより効果的なんじゃないかなというアイデアです。

次が大坂の陣400周年ということで、「THE 戦国博」ですね。こちらもいろんな団体でイベントの企画とか始まっているのかもしれませんが、もう一つ足並みがそろっているのかという声がありまして、それを区が中心になって取りまとめていって、いろんな企業にも参加してもらって盛り上げていこうよということです。具体的には茶臼山とかそういったところもありますので、広いスペースもありますので、それを活かしてスポーツ的なイベントであったりとか、馬を使ったイベントであったり、そういったことも企画できるかなと。期間は後2年4カ月ほどしかないので、早急にやる必要があって、資金がどれぐらいかかるかということも詰めていかなければいけないと思います。

あとですね、最後に区広報掲示板の活用方法ということで、ちょっと河村委員から出てまして、こちらは私今日初めて聞いたんで、河村委員のほうからお願いします。

○河村委員

区広報掲示板というのが区内で約80カ所あるんですけれども、大阪市がこの前まで管轄されていたんですけれども、この区広報掲示板が移管されて、今後の利用課題の一つなんですけれども、この区広報掲示板のデッドスペースといいますか、この広告をつけているところとつけていないところが、天王寺区内にいろんなところがあるんですね。天王寺区内って結構、マンションギャラリーが多いんですね。マンション

ギャラリーって、広告を貼りたいって言うと、そこら辺に貼れないんですね。よく電柱で貼ってたりとか、こっちに売り住宅あるとか電柱に貼ってるんですけど、そういう広告スペースをつくってどんどん税外収入を得たらどうかな、というのがこの案なんですけれども。24年度の広報掲示板の単価が月額1,250円、意外と、割と安いんですね。年間でも1万5,000円。近くで、駅から行くのにだいたい公園とか通っていったりするときに、公園の近くにはだいたい掲示板があるんですね。小学校の近くとか。そういうところを使って民間のマンションギャラリーとか塾とか飲食とか、あとは案内板等を有料化で貸し出ししたらどうかなというのがこの提案です。

以上です。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。それではご意見、ご質問等受けますが、その前に勝手ながらまた議長特権で、私ひとこと。

実は私、5年前にここに来てから西門の周りを元気にしようということで、日曜日に朝市を出したり、いろいろやってきました。それでお大師さんと太子さんの日、21、22日をやろうと思ったんですが、これはできないんです。なぜできないかというと、四天王寺のあの中に入っている業者は、昔から契約がありまして専門の方々が入っていて、通りで商売を始めたら彼らの邪魔をするということになりますから。じゃあ我々、どこでどうやってやろうかということで、結果的にできたのは大江小学校の前の空き地だけ、そこでしかできないということがありまして。

ですからこれ、詰めていくのは、ぜひそうなってほしいとは思いますが、四天王寺とも相談しながら関係業者のことも頭に入れて、具体的にどういうことができるか、もともと楽市楽座というのは、ものは自由に入ってきて税金も取らず、本当に治外法権的なことができるということなんですけれども、今は既得権益に守られている形がありますので、そのところを考えて練っていただければというふうに思います。

それからもう一つ、いろんなお祭りが地域でもありまして、実はその情報が住民に伝わっていない。例えば、我々が5年前から始めた四天王寺を使った七夕祭りですが、7万人集まっていますが、区はほとんど相手にしてくれていないということもありまして、400年のお祭りをやるのはいいんですけども、せっかく核が出てきたお祭りがいろんなところにいろいろあると思うので、そういうものを育てながらつなげていくということも考えの中に入れてほしいと。

勝手ながらもう一つだけ。区の、区長のビジョンの中に入っているプロモーションのところで、インバウンド観光、国際観光をどうやってやるんだというところの視点が入ってないので、それはどうして入れないのか。

○田中（創三郎）委員

単純にちょっと議論がそこまで及ばなかったんですけども、今後それは課題として取り上げていきたいと思います。

○田中（英俊）議長

勝手言いまして、すみません。後、皆さんのご意見いただきたいと思います。

○河村委員

これだけ出てきたんですけど、本当に天王寺って、惜しいんですよね、全てに関して、本当に惜しい天王寺なんですね、天王寺って。四天王寺自体が最古の寺なんですけれども、その最古の寺って認識がないんですね。この四天王寺の大師さんも有名なところは有名ですけど、ほとんどの方が知らないと言います。車で通ってても、何やってんのやろというぐらいしか、多分ほとんどの方はそれしかないと思うんですね。これをどんどんPRしようと、一つの観光として目玉でぼんち行ったらおもしろいと違うかなと。参道から盛り上げていかないと、向こうに行ったらそりゃ向こうの中で祭りは盛り上がってるんですけども、さっき議長が言われたように、中でやるんで商売の妨げをしてはいけないと。それも僕、地元が四天王寺の近くなので、中のテキ屋さんの元締めさんをご存じなんですね。そことも関係、いろいろ議論してい

って、西門本通商店街を通過って天王寺北口商店街ですかね、駅前商店街、あそこも
どんどん連絡して、こういうのをしていこうというのをみんなで協力して、区主導で
はなく、地域の方が主導してやっていくという、バックアップで区がやっていこうと
いうふうに持って行きたいなと思っています。

以上です。

○田中（英俊）議長

はい、どうぞ。

○飛田委員

四天王寺さんばかり書いているんですけども、いろいろなところで我々、一心寺
さんというのが結構おもしろいお寺で、シアターも持たれているので、そういうところ
もうまく使えばいいのかなという。あそこ住職さんといいながら建築屋さんだったり
するので。あれも一つ、人が集まっていますので、あのあたりということで。

あと上町台地というのがせっかくあるので、ずっと原生林も残っていることですし、
滝もありますし、そういうのも含めて何か絡めたらどうかなという気はします。四天王
寺さんは、昔はもう少し屋台もいっぱいあって、見せ物もあって結構外国の方もい
っぱい来ていたんですけど、ある時期からなぜか知らないんですけど古道具屋さん
で着物とか売らなくなってから、あまり外国の方も来なくなったような記憶がありま
す。昔はものすごく外国の方が、日本の着物を安く買えたので、ものすごく来られて
いたんですよ。

○田中（英俊）議長

どうぞ。

○田中（誠悟）委員

よろしいですか。ちょっと切り口を変えた提案ですが、天王寺公園のところ。例え
ばなんですけど、検討いただきたいという話ですけど、例えば大道芸人とかライブが若
い人ができるように、ちょっとスペースをつくってあげたり、大阪城公園なんかはラ

イブができるじゃないですか。天王寺公園、多分環境的にも恐らく近くに民家がないので、そのあたりある程度の音量を出しても大丈夫だと思うんですね。例えば簡単な屋根をつけてあげるぐらいの建設費はそんなに大したことはないと思うので。大阪市内ってあまりないですよ、そういう大道芸人とか若い人がライブができて、そういうのを育てられる環境ってあまりないと思うので、割と目玉になるんじゃないかと思うんですね。特に天王寺というのは若い人が集まる場所ですよ。高校生とかが割と多いまちですからそのあたり、高校生、専門学校生ぐらいまでをうまく引き込めるようなものが、あそこにできれば一つなのかなというふうに僕は思っているんですが。ちょっと検討いただければおもしろいと思います。

○田中（英俊）議長

大阪市立美術館のニュースが飛び交っているんですが、あれについては区のほうには何かお話はあるんですか。

○水谷区長

そうですね、市長もメディアの取材に対してあの計画について認めまして、今後また区役所サイドも参加してあの件についても、全市的な会議の場があるわけでございますけれども、区としてはやはりああいう計画が発表されて、じゃああの天王寺公園エリアはどうなるのかと。まさに区内のにぎわい喪失、活性化の一番一里塚の部分だと思いますから、どのように活用していくかということも含めていろいろと質問、発言等してまいりたいというふうに思っています。

○河村委員

天王寺公園も美術館も区民がどういうふうにしたいか、という声もどんどん拾っていただいたほうがありがたいですね。

○田中（英俊）議長

ほかにご意見は。

○飛田委員

昔は天王寺公園はカラオケがいっぱいあったんです。でも天王寺博覧会があったときに、あそこ全部囲ってしまって、そういう人たちをいなくしてしまったので、だから今みたいに誰もいないというふうになったのは確かです。昔はあそこはホテル街の谷間みたいになってるあたりでものすごくやってはったんです。若い人じゃないですよ。

○河村委員

それと大坂の陣400周年の件なんですけれども、今、今日ちょうど天王寺の六万体现在ある明倫産業さんに行く用事があったので、行って来て写真をちょうど撮ってきたんですけれども、甲冑とか刀とか。こういうものを天王寺美術館の中に飾って、そのときの大坂の夏の陣の、陣を張ってる甲冑を置いて催しみたいなのもおもしろいんじゃないかなという、そういう今提案をして来たんですけれども、いやいや、そういうことやったら参加させてください、ということも言われていたので、結構皆さん、前向きなご検討をいただいていることです。

○田中（英俊）議長

先ほど、このチームの一番大きな仕事の一つが大坂の陣400周年事業をどうやっていくかということですよね。区長の考えの中にもそれがあって、区の中にそういう組織を立ち上げて、区とか大阪市も巻き込んでされていこうとされてるんじゃないかと推測するので、それとこちらが一生懸命努力して考えることを、どういうふうにすり合わせするのか、それも含めてこのプロモーションのところについて、区長の考え方をもうちょっとお聞きできれば。よろしいですか。

○水谷区長

まさにご指摘のとおりですけれども、具体的には恐らく来年度という区切りになると思いますが、区のほうにもやっぱりこのシティ・プロモーション担当の班を設置する方向で準備しております。その上で、もちろんこの戦略会議の作業部会の中からも、こういうふうな400周年のイベントをやったらいいんじゃないか、というご提言を

出していただきたいですし、また今私のもとに知り得る限り、例えば振興町会さんですとか商店街さんとかですか、さまざまな立場の方から400周年に向けてこういうイベントをやったらいいんじゃないか、ということでご提案もいただいています。またオフィシャルにも今、区役所のほうでイベント募集ということで、まさにこの区内の掲示板に掲示をさせていただいて、いろいろとアイデアを集めさせていただいてるところです。さまざまなこの提言をいろいろと見させていただいて、それを踏まえてまた区としても、こういう形でお手伝いさせていただきたい、というようなまとめをつくって、そのタイミングでぜひ来年度中に、区民の方々と一緒に膝を突き合わせて、この400周年イベントをどういう方向性で盛り上げていくか、ということ話し合う機会が設けられたらよいかな、というふうに今、念頭を置いています。

このシティ・プロモーションチームの報告について改めてちょっとお話しさせていただきますと、まずやっぱりこの五感に訴えるスポットが、もうちょっとあればなどというご指摘はそのとおりだと思うんですね。特に音の部分、もうちょっとこの天王寺・阿倍野エリアは市の都市魅力戦略会議においても、重点エリアとして位置づけられておるわけですが、そういう音があって興味を引く部分、映像があって興味を引く部分とか、いろいろなアトラクションを設けていく必要はあるかなというふうに思っております。やっぱり今日も400周年イベントということで、こういうのはどうかということで、いろいろとこの12ページのほうですか、チャンバラ大会とか古武術大会とか、いろいろとたたき台をご提示していただいたんですけれども、正直申しましてもう一声、二声欲しいなという感じです。

やっぱりこのイベントを考えているときってどうしても、例えば数万人規模でやるイベントならこれぐらいだろうと、ほかの自治体でもこういうのがあったから、こういうのだろうとって、どうしてもイベントってこういうものでしょう、という固定観念のもとにアイデアを出してしまいがちなんですが、いったんその固定観念を外した上で、いろいろと自由にブレインストーミングする必要があるのかなと思います。

そのときのキーワードになるのが、やっぱりイベントとして成功させるためには、多数からの評価を得るために、いろいろとこういうアイデアなら効くんじゃないか、こういうアイデアなら受けないんじゃないかと考えてしまいがちですけども、それによってやっぱりどうしても無難なアイデアだけが最後に残ってしまうということが往々にしてあると思うんですね。やっぱり世の中のヒットにつながるようなものというのは、そういう多数に受けるような方向性でつくられたものではなくて、意外と実在する特定人物のニーズを捉まえてつくったものだったりするわけです。

先日私も野村総研のコンサルタントの方とお話ししてなるほどなと思ったわけですが、例えば i P o d という商品が世界的なヒットをしました。i P o d というのはこれまで例えば、携帯端末型の音楽機器についてはソニーとか初め、さまざまな業者が参入してきたわけですが、そこら辺の競合他社分析をして、理論の上にはじき出された商品かと思いきや、たまたまアップル社の社員が都市部に住んでいて、地下鉄通勤をしている人たちが音楽をすごく楽しみたいと、たまたまそういう友人がいたと。その友人が音楽を楽しむためにどういう商品がプレゼントしてあげられるだろうか、という発想でつくられたという話を聞きました。それからよくこれ、原田委員とも話んですけども、ユニクロのヒートテック。厳密に言いますと、ユニクロと東レが協力してつくられたこのヒートテックですね、皆さんもこの冬場、重宝されておられる方がいると思うんですけども、あれもある女性のためにつくられた商品だということです。要は女性が冬場はどうしても寒くなるから、おしやれをするのは我慢をするのが当然だというふうに思い込んでいたわけですね。ちょっとファッショナブルな服を着ようにも、やっぱり厚着してしまうとどうしても着太りしますから、我慢して薄着をします。それをやっぱりかわいそうだということで、ユニクロの中の女性社員が非常に温熱効果もあって、かつ非常に薄い素材でつくられた肌着をつくればいいんじゃないか、という発想で東レと協力してヒートテックをつくったと。

だから何が言いたいかと申しますと、イベントをつくるときにやっぱり一般受けを

真っ先に狙うのではなくて、自分個人が、あるいは自分の身近なお子さんが、友達がそのイベントに行って本当に楽しめるかと、本当に心底そのイベントに行ってみたいかという観点で、ぜひもっと掘り下げていただきたいなと思います。やっぱり私も複数の自治体でイベント関係の取材とか、したことがある経験から申し上げますと、どこかで見たようなイベントというのはすぐに埋没します。天王寺区のこのイベントにわざわざ大阪市外から来てみたいと思うか、大阪府外から来てみたいと思うか、関西を越えて、東京から新幹線に乗って来てみたいと思うかと、そういう観点でぜひ企画を精査しながら練り上げていっていただきたいなというふうに思います。

もちろん区役所としても、今まさに地域の方々初め、この会議初め、さまざまなアイデアを受けながら区役所としても、いろいろたたき台をまとめておるところです。私個人としてもいろいろとたたき台をまとめておるところです。それをやっぱり一度突き合わせてまた検討したいんですが、全てのキーワードは今日もありましたけども、やっぱり住民参加だと思います。こういうイベント事は行政がやってしまうと、どうしても武士の商法と申しますか、なかなか盛り上げに至らずに頭で描いた机上の空論に終わってしまうということも往々にしてありますので、地域主導、行政参加というぐらいがちょうどいいのではないかなというふうに思っております。またぜひ継続的に議論していけたらと思います。

○田中（英俊）議長

ありがとうございます。情報発信のところで一つ区のほうに確認させてほしいんですが、今一番効果があるのはインターネットのホームページでして、我々が学校を経営していて子どもたちが何でうちを受けてくれたかというトップは、インターネットで情報を見てということです。私も国際観光振興、関西全体のをやりましたけども、ホームページを充実すればするほど1日に何万件と海外のエージェントが見てくれたり、旅行社が見てくれたりということがありますし、天王寺区も今、そういうホームページはお持ちなんではないでしょうか。

○水谷区長

はい、まさに議長が非常にタイムリーかつ僕の関心事にすごくピンポイントにヒットしているご質問をしていただけるので本当にありがたいです。区役所としてもホームページを持っているんですけども、やっぱり広く多くの人に訴求するようなデザインになっているか、あるいはそういうレイアウトになっているか、あるいは情報内容になっているかといったら、まだまだ改善の余地があると思うんですね。ちょっとまだプレスリリース等もしていないので、細部に入りてはまだ公表できない状況なんですけども、今年度末から来年度にかけて区のウェブ上の情報発信というところについては、抜本的に見直しを図りたいなと思います。

今日は市のO B F、大阪ビジネスフロンティア高校のほうに伺わせていただいて、そこでもちょっとその高校のウェブページの話が話題に上がって、私自身やっぱりO B Fのウェブページを見て、これはもう本当に一般の企業の商用サイト並みのわかりやすさとアトラクティブネスを兼ねそろえているねということを思っていたので、その思いを打ち明けたところ、校長先生から学校の中に専門のウェブマネジャーみたいなのがいて、そこともう喧々諤々やりながらウェブページをつくり上げていって、学生さんが頻繁に見るから、それがやっぱり入学動機につながってることも多いから、小まめに情報発信も内容を変えているというご説明を受けました。

やっぱり本当に議長がおっしゃったように、ウェブは高校生さんがよく見られているということですけど、若い人は非常に今、見ていますから、若い人が非常に利用しているそのフェイスブックとか、そうしたSNSとの連携も含めてやっぱり思い切り攻めていかないといけないなというふうに思っています。

佐賀県の武雄市が、市のホームページを全部フェイスブックに移管させてしまったという状況がありましたけど、あれはやり過ぎるとユーザビリティにやっぱり問題が出ると思うんですね。僕も実際あのホームページにアクセスしてみて、これはやっぱりフェイスブックが何か表示が重かったりするときもあるので、逆に利便性の部分で

損なっている部分があるんじゃないかなと言って、実際ユーザーの観点から思ったんですけれども。過ぎたるは及ばざるがごとしということもありますから、どの辺がユーザビリティが担保されていて、一方で広く多くの人に訴求するようなデザインも担保しているのかという、このバランスを考えながら、ちょっと今年度末から来年度にかけて、ウェブデザインの改善というのは強力に進めてまいりたいなと思います。

○田中（英俊）議長

そうしたら、作業部会のほうでも発信の中で、それを頭に入れながら議論していただければと思います。

時間が大分押してきましたけれども、せっかく議員がお二人来られていますので、今までの議論を踏まえながら、市会としての考え方もあろうかと思いますし、我々にアドバイスになるようなことも含めて、ご意見をいただければと思います。

まず、足高さんから。

○足高市会議員

今日、お話を聞かせてもらって皆さん方が一生懸命やっておられるのもよくわかりましたし、個々の問題ではなかなか詰めるところまで行ってないのも事実だし、基本はやっぱり皆さん方のところは、お金の問題は一切議論されてないんですけども、大体いろんなことを含めて、ただでできるものはほとんどありません。これは区長に言うても区長が全部この予算をとることは現実には不可能です。その中で例えばボランティアの話もありましたけども、田中誠悟委員がおっしゃっていた国際交流センターのボランティア、ジュニアクラブですね。その方々はただで来てもらっているんですけども、あのチームをつくるだけでも、もう何年とかかっているんです。ようよう、あれで昔来た子が高校に行ったらまたそれで応援に来てくれるとか、それはできているわけでね。それを単に、ぽっと出ただけでボランティアが来るかということとそんなに甘くはない。

だから非常にすばらしい絵を描いていただいていますけども、やはり本当にやろう

としたらもっと緻密にやっていかんと、なかなか厳しい面がいっぱいあろうかなという思いがいっぱいです。田中議長さんがおっしゃっているようにいろんな幅広く、お話を詰めていかれることが、この実際やることについては大事ではないかなというように思います。

あんまり長いことお話しするといかんで、この辺でおいておきますけど、ぜひとも後、しっかりと頑張ってください。

○田中（英俊）議長

では福島議員。

○福島市会議員

いつもいろんな議論をしていただいて。毎月やっているのは、多分この区政会議が有識者会議とこの戦略会議と分かれて、こういう形でやっているのというのは、この天王寺区だけだと思うんですけども。

今現在の方向性としては、各区当たり区長が区長自身の判断で裁量でできるというのが、この来年度からは2, 0 0 0万ぐらいの方向です。だからそんなにすごく大きな額ではないんですけども、これまで各区でなかなか区長の判断でできる部分なかったんで、そういった意味ではこれから区長の判断、もちろん区政会議の意見だけが全て実現されるわけではないですけども、区内のいろんな団体とか区民の意見を聞いた上で、区役所が判断していろんなことができるものはできるでしょうし、もちろん今日のお話の中のものも、いろんなまだまだ調査が必要な部分もあると思います。ただ、そういった意味で、議論のための議論ではなくて、やはり実現に向けた一つの場になればいいなというふうに思っております。

それとまた、この区政会議全体の話ですね。区政会議全体が市長の提案で条例という形の今、方向性になっております。そういうふうにすることで、予算とか権限とかも使うことがしっかりした形にしよう、というのが今現在の市長の考え方です。まだそれは方向性だけではっきりと決まっていませんけれども、そういった方向性に動こ

うとしております。いろんな区がいろんな考え方があって、ただこの天王寺区はもちろん区民の意見、もちろんお住まいじゃない方も含めて、区内に働いていらっしゃる方とかいろんな意見を取り入れていって、それで本当に、多分すごい時間を使っただけでも実現できる部分というのはもちろん半分も、1割あるのか2割あるのかわからないですけども、これまでほとんどそういうことができなかったのに比べたら、新しく皆さんの意見、皆さんだけでなく区民の多くの意見を踏まえて、天王寺区独自のまちづくりができる方向性になっていくと思いますので、今後さらに議論を深めていただいて、何かこの会議から生み出すことができたらいいなと思いますし、また私自身もご協力させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○田中（英俊）議長

今、区長の裁量で2,000万と聞きましたが、2回目の会議のときに2億円と私、耳に残っているんですが。

○水谷区長

区長重点経費というのが2,000万なんです。一応額面では2億円、これは区まちづくり予算であって、それ以外に区シティ・マネジャー予算というのがあって、それがまた局にありますから、実際もうちょっと大きな額があるわけですけども、ただその額を自由に全てゼロベースで動かせるかと言ったらそれは当然、不可能な話だと思います。やっぱりこれまで区政が脈々と受け継いできたものを踏襲した上で、変えるべきものは変えるべきですし、守るべきものは守るべきですというところを、基準を立てて考えていったら、それはそう簡単にゼロベースでいじれるものではないと。ただ、新たに付与されたこの2,000万の福祉策とかにも重点的に使える経費として措置されていますので、これについてはゼロベースで純粋に。そろそろプレスにも議会のほうにも発表させていただくことになっているわけですが、天王寺区の福祉課題を設定して、それに対応した施策を一から構築したという形であったり、こちら辺についてはまた再来年度以降の予算編成に向けて、私だけじゃなく、多分、各区長、

いろんな予算と権限をもうちょっと委譲してもらいたい、というさまざまな意向を持っておりますから、やっぱり区長会としてまとめて、各局に要望してまた交渉してもらってもらう話なのかなと思います。ですから、2,000万という数字を聞くとすごく皆さん、絶望の表情になるかもしれませんが、これはまだいろんなやり様がありますから、壁は必ず突破するなり、迂回するなりして、問題解決に導く方法というのがありますから、またぜひご相談いただけたらと思います。

○田中（英俊）議長

特に皆さん、これだけ言っておきたいということがあれば。

よろしいですか。であれば最後、3チームに対して最後に区長から抱負なりを。

○水谷区長

本当に皆さん、お疲れさまでした。年末に部会が設置されて、やっぱりこの1カ月ぐらいで、よく会議でペーパーをまとめてくださったなと思います。

私も3作業部会、1回ずつ会議、ちょっと打ち合わせを見させていただきましたけど、本当に皆さん積極的に、仕事で疲れている方もおられように、家事で疲れている方もいるでしょうに、やっぱり集まって自由闊達な意見を交わしていただいて、本当にすばらしいことだなと思いました。

やっぱり今回すばらしい発表をしてくださったから、私のほうもぜひ、期待のハードルがどんどん皆さんに対して上がってきていますので、今後またさらに、今日出していたいただいた方向性のもと、具体的な提言にまとめていっていただきたいなと。その提言をやっぱり区長としても重く受けとめて、区政の重要な参考要素として進めてまいりたいなと思っておりますので、今後とも皆さん、何とぞよろしくお願いいたします。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。私、議長の立場でありながら勝手な発言ばかりして申しわけないと思っておりますけども、お許しいただければと思います。

今日の議論は後二、三分残しておりますけど、これまでにいたしまして、事務局のほうにお返しします。よろしくお願いします。

○事務局

本日は熱心なご議論、どうもありがとうございました。

お手元のほうに「第3回天王寺区区政戦略会議に関するご意見シート」をお配りしておりますので、言い足りなかった分とかございましたら、このシートの様式でなくても結構ですのでまたお寄せいただければと思っております。

次回の会議ですが、毎月開催ということで2月の下旬の開催を予定しております。また詳しい日程は調整のほうさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

本日の資料及び議事概要、議事録はまた後日、天王寺区のホームページのほうで公開してまいりたいと思いますので、できましたらお送りさせていただきますので、またご確認のほうよろしくお願いします。

それでは以上をもちまして、第3回目の区政戦略会議を終了いたします。皆様どうもありがとうございました。お疲れさまでした。お気をつけてお帰りください。

—了—